

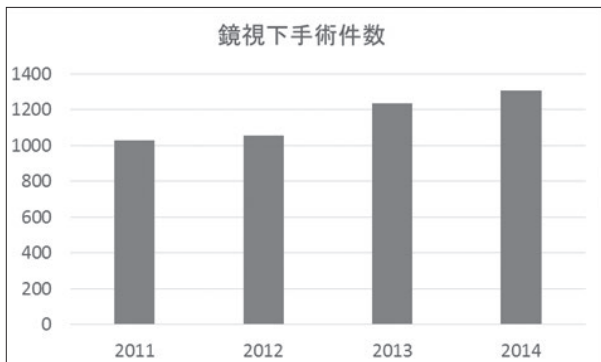
鏡視下手術部

1. スタッフ（平成27年4月1日現在）

部長（教授）：佐田 尚宏
 医員（教授）：Alan Lefor
 医員（准教授）：細谷 好則
 医員（講師）：俵藤 正信
 医員（講師）：佐久間康成
 医員（講師）：竹井 裕二

2. 鏡視下手術部の特徴

鏡視下手術部は2007年10月診療科横断的な組織として中央部門に設立され、鏡視下手術のトレーニングとマネージメントを行っている。当院の鏡視下手術施行診療科は15診療科、年間施行件数は2011年度1,027件、2012年度1,054件、2013年度1,235件、2014年度1,308件（2014年4-9月実績を年度換算）と年々増加の傾向にある（下図）。



2012年4月からは腹腔鏡下前立腺摘出術に、手術支援ロボット加算が他の鏡視下手術に先がけて保険収載され、当院でも2014年9月に臨床導入し2015年2月までに10例の手術を安全に実施した。この臨床実施に先がけて2012年から手術支援ロボット導入WGを組織、2013年11月大動物実験センター（CDAMTec）にIntuitive社Da Vinci Siを導入した後は手術支援ロボット運営部会において、臨床導入までのトレーニングプログラムを作成・運用している。

3. 業績・クリニカルインディケーター

①JMU鏡視下手術シミュレーション（Da Vinciシミュレーション）の開催

鏡視下手術技術の向上、新規手術導入への準備等を目的として、本学実験医学センター医療技術トレーニング部門と共同で、ブタを用いた鏡視下手術トレーニング（JMU鏡視下手術シミュレーションと命名）を、

2008年2月から約2か月に1回の割合で開催してきた。2013年12月の第36回からは手術支援ロボットを用いたDa Vinciシミュレーションとして実施した。2014年はDa Vinciシミュレーションを10回開催し、指導医14名、修練医136、見学者46名（延べ数）が参加した。

2014年開催実績

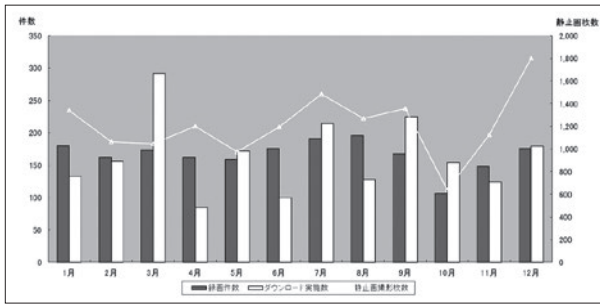
第37回：2014年1月24日（金）
 第38回：2014年2月28日（金）
 第39回：2014年3月28日（金）
 第40回：2014年4月11日（金）
 第41回：2014年5月16日（金）
 第42回：2014年6月20日（金）
 第43回：2014年7月18日（金）
 第44回：2014年8月8日（金）
 第45回：2014年10月17日（金）
 第46回：2014年12月19日（金）

②中央手術部鏡視下手術機器整備

鏡視下手術部運営会議を年2回開催し、鏡視下手術機器の運用・更新の統合・均一化を推進している。2010年4月に手術室録画システム（JMFS）を導入し、すべての内視鏡手術を同形式で録画、保存し、各科のカンファレンス室でストリーミング閲覧できるシステムを確立した。また、2010年10月から手術室鏡視下手術機器を最新式のハイビジョン対応リース機器7台に統一し、鏡視下手術機器の均霑化、手術室業務の軽減を実現した。

JMFSによる録画件数は2013年1,997件（2013年実績：1,980件）、動画ダウンロード1,962件（2013年実績：1,391件）、電子カルテシステムへの静止画出力14,498件（2012年実績：10,608件）と、録画件数はほぼ横ばいであったが、ダウンロード件数は前年比41%、静止画出力は37%増加した。

月別録画件数（黒棒）、ダウンロード件数（白棒）、静止画撮影枚数（折れ線）



4. 事業計画・来年の目標

①JMU鏡視下手術シミュレーションの開催

2015年にはDa Vinciシミュレーションを6回、手術支援ロボットを用いたドライ・トレーニングを12回実施する予定である。

②中央手術部鏡視下手術機器整備

2015年9月に現在のVPP契約が終了するため、次期VPP選定部会を組織し、3D機器の導入を含めた新たな5年計画を策定する。録画システム（JMFS）についても、導入から5年が経過し、3D対応を含めた更新を検討する。

③鏡視下技術修練システムの整備

本学における鏡視下手術技術の向上、鏡視下手術技術基準の作成を目的に、技術修練システムの整備を計画している。JMU鏡視下手術シミュレーションを核に、ドライラボ（バーチャル、リアルシミュレーター）を組み合わせた鏡視下技術修練システム導入を、本学メディカルシミュレーションセンターと共同で推進する。鏡視下技術修練システムの整備状況を当科におけるクリニカルインディケータと位置づけ、積極的に取り組む。手術支援ロボット使用については、倫理面も考慮したトレーニングガイドライン、実施ガイドラインを作成する。

④手術支援ロボット臨床試験の実施

2015年2月時点で、腎部分切除術、胃切除術、咽喉頭癌切除術が先進医療として認可された。手術支援ロボット運営部会では、これら手術を含めて現在保健診療点数未収載の手術支援ロボット手術を臨床試験として実施するためのガイドラインを作成し、臨床試験の早期実施を目指す。